

JR 芦屋駅南の再開発事業予算案の可決を受けて

再開発事業は、一般会計予算、特別会計予算と2つの財布を持つのですが、一般会計から特別会計へ繰り出して財源にする手法を取っているのです。その繰り入れた財源で用地の取得などに充当するのですが、今まではこれを大幅に減額すること等で2年間に及ぶ”中断”状態となっていたのです。

しかし、先の3月議会では、JR 芦屋駅南地区再開発事業のR4年度予算が22日可決されました。これより先の14日に開かれた予算特別委員会で、公明党から昨年同様、駅南の事業予算を減額して待ったをかける修正案が出されました。これに対し、これまで我々と同一歩調を取っていた最大会派の自民党が今回は、行財政改革の肝となる職員数を適切に管理することの言質が市から得られたとして原案の賛成にまわったため、私が賛成した修正案は賛成少数で、否決されました。そして、既述したようにその後の本会議で、再開発事業に関連する費用を盛り込んだ令和4年度の当初予算案の原案が可決されたのです。

そもそもこの事業が問題だと考えていたのは、200億円を超える総事業費が財政を圧迫し、市の貯金である基金を枯渇させてしまうという財政上の理由が発端でした。そして、その事業手法はじめ、再開発事業の一義的な目的である交通課題の解決のためになぜ、100億円もの税金をつぎ込む必要があるのか？なぜ、億ションの入る再開発ビルは必要なのか？等といった理由からです。

しかし、今回自民党が賛成に舵を切ったことで、大勢が決することになり、熟慮の末、断腸の思いで予算原案を認めざるを得ないことからの、やむを得ない賛成という立場を取ったものです。

というのも一般会計予算案には、日々の暮らしに直結する市民サービスの費目が含まれ、これに反対し、止める訳にはいきません。加えて、現在進行中のJR 芦屋駅舎改良工事費も含まれます。また、特別会計には職員の人件費も計上されています。市民の気持ちに寄り添う議員としてこれらにノーといってまで予算に反対するというのは無責任といえるのではないかと考えました。

工事着工まで1年程度。今後はこの事業の市側の執行に決して手綱を緩めることなく注視していく所存です。

ハラスメント対応に関する決議 (3/22)につきまして

一昨年6月の「一般質問」を行なう際に、決議文における当事者の同意を得ないで質問を行なったことは不適切であり、及び、そのことで他の議員に間違った情報を与える結果を招き、誤解を生じさせたことは、私の至らぬ点であったものと心より深く反省しております。

当事者、議会関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。今回の決議の内容を真摯に受け止め、より市民の皆様のお気持ちに寄り添った活動を行なうべく精進してまいります。